

# 改訂の序

放射線診断専門医をめざす研修医や若手放射線診断医が日常診療で参照できる骨軟部画像診断テキストを目指して初版が刊行された。初版は骨軟部放射線診断を専門とする多くの執筆者の協力を得て、骨軟部画像診断の入門書として大変好評をいただいた。しかし、改めて見返すと編者として反省点があった。一疾患・見開き構成は良いアイデアであったが、欲張って情報を盛り込み過ぎたくらいがあった。その結果、込み入った誌面になり、執筆者から提供いただいた貴重な画像が小さくなり過ぎてしまった。

画像診断のテキストにおいて画像は生命線である。この点を再認識して、今回の改訂では画像の数は温存しつつ、できる限り画像を大きくした。特に鑑別疾患の画像は再度トリミングをしたうえで画像を拡大した。また、初版から4年が経過し、その間に3T-MR装置が普及した。新しく鮮明な画像のあるものは初版と差し換えを行った。

誌面の構成については、一疾患・見開きを踏襲しつつ、他の項目と記述内容に重複の目立った「コレだけは忘れない」と「画像検査とその選択」を割愛し、誌面をスリム化した。基本的に、見開き左頁には、「診断名」、「疾患概念」、「症例の写真」、「画像所見のポイント」、右頁には「臨床所見」、「病理所見」、「鑑別診断のここが重要」、「鑑別すべき疾患の画像」を配置した。初版で右頁にあった「疾患概念」を左頁に移動、左頁にあった「鑑別すべき疾患の画像」を右頁に移動することで、見開き頁内で後戻りすることなく読み進むことができるよう構成を変えた。

これらの工夫の成果があらわれ、初版以上に「骨軟部画像診断のここが鑑別ポイント 改訂版」が読者に迎え入れられることを願う。

末筆ながら、今回も改訂にあたっては多くの先生方に内容の見直しと写真の差し替えをお願いした。この場をお借りして皆さんのご尽力に感謝申し上げる。

2012年8月

福田国彦